

新潟市都市計画基本方針 — 都市計画マスタープラン —

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

●めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指します。

●都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全（面の構造）
- 都市及び地域の拠点の育成（点の構造）
- 地域の拠点間の連携（線の構造）

図 都市構造概念図



新潟らしい景観形成

都市の魅力の一つとして、潤いややすらぎのある快適な都市環境が求められています。

美しく个性的で魅力あるまちづくりを目指し、新潟らしい景観を「まもり、そだて、つくり、つたえる」ため、「新潟市景観条例」や「新潟市屋外広告物条例」を定め、総合的・計画的な景観形成を推進しています。

各地域においては、それぞれの歴史と文化を活かした「修景」や「きめ細かなルール作り」を行うことによって、賑わいと活力あるまちづくりを進めます。



〔本市を代表する景観 萬代橋と信濃川〕



〔歴史的まちなみが残る古町花街〕

(都市計画課)

鳥屋野潟南部開発計画

一水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性
鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

いくとぴあ食花

平成26年6月に、食育・花育センターやこども創造センターが立地する「いくとぴあ食花」がランドオープンしました。(国際文化・教育ゾーン)

HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)

新潟アサヒアレックスアイスアリーナ

平成26年2月に、フィギュアスケートやカーリングなど氷上スポーツが年中無休で楽しめる「新潟アサヒアレックスアイスアリーナ」がオープンしました。(ウェルネスゾーン)

長潟南土地区画整理事業施行地区

鳥屋野潟南部地区 A=270ha

鳥屋野潟南部地区全景

●まちなかのリニューアル

一地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなか再生を支援

各地域の市街地中心部を“まちなか”と位置付け、地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなかの再生を目指し、市民が主体的に行うまちづくり活動に対し支援を行っています。また、政令市の顔である中心市街地の活性化に向け、土地の高度利用や都心居住の促進、広場や緑地等の公開空地の整備といった良好な市街地形成を図り、まちなか再生につながる民間の建築活動に対し支援を行っています。

【寄居町地区 まちなか再生建築物等整備事業】



既成中心市街地である古町周辺地区に建築された築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。

【新潟駅南口第二地区 第一種市街地再開発事業】



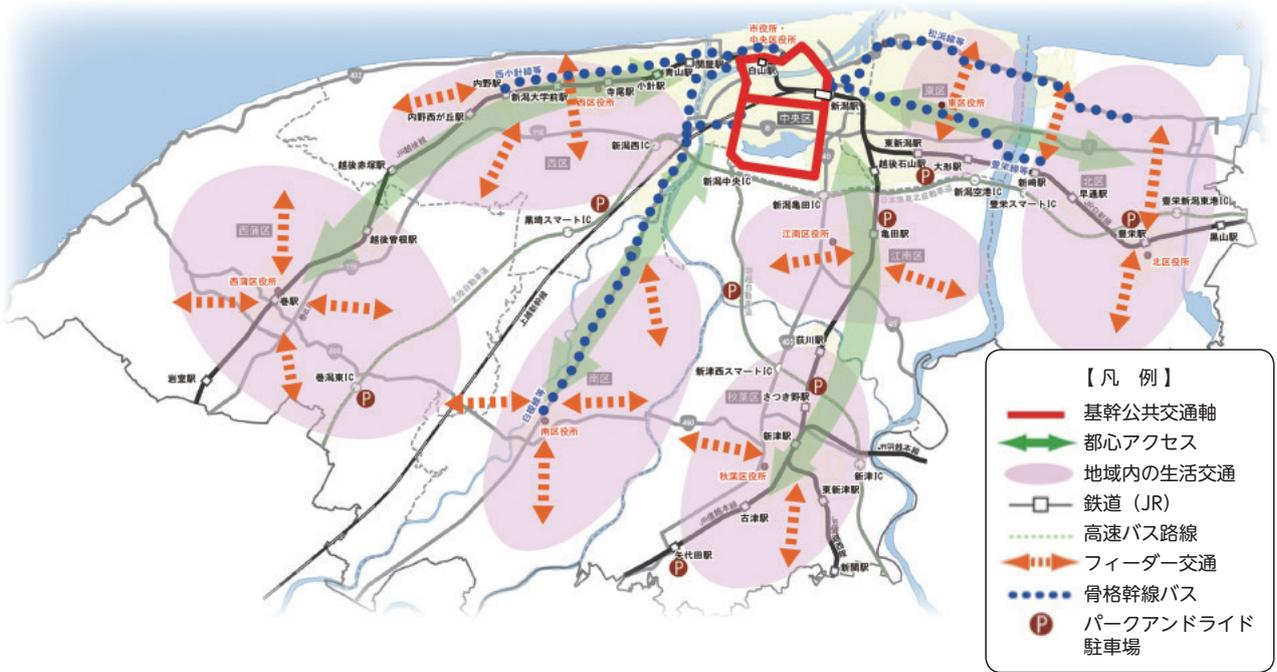
新潟市の陸の玄関口である新潟駅の南口において、広域交通拠点周辺地区としての立地条件を活かし、都心居住を目的とした住宅等を中心とする施設計画により事業を進めました。

(市街地整備課)

快適に移動できる交通利便都市を目指して

● 「にいがた交通戦略プラン」の推進

田園に包まれた多核連携型都市を目指し、新潟らしいコンパクトなまちづくりを推進しています。このため、交通体系を充実することで地域間連携を強化するとともに、地域のニーズや人の移動特性等を考慮した公共交通利用の環境整備に取り組んでいます。



- 【凡例】
- 基幹公共交通軸
 - ⇄ 都心アクセス
 - 地域内の生活交通
 - 鉄道 (JR)
 - - - 高速バス路線
 - - - フィーダー交通
 - ⋯⋯ 骨格幹線バス
 - P パークアンドライド 駐車場

公共交通の施策展開の **三つの視点**

都心アクセスの強化

生活交通の確保維持・強化

都心部での移動円滑化

I 多核連携型の都市構造を支える交通

都心に行きやすく地域間の結び付きを強化する交通施策

II 地域の快適な暮らしを支える交通

各地域の特性とコミュニティを大切に交通施策

III 市街地の賑わいと都市の活力を創出する交通

質の高いサービスと移動性を確保する都心部の交通施策

都心部における賑わい空間や魅力に資する交通施策

IV 地域や関係者が一丸となって取り組む交通

市民や事業者とともに進める交通施策

具体的な手法として

新バスシステム

～持続可能な公共交通体系の構築～

新たな交通システム(BRT)の導入 + 全市的なバス路線の再編

～日本海交流都市の拠点づくり～

●新潟港利用活性化事業

国際拠点港湾である新潟港は、日本海沿岸諸国の活力をわが国に取り込む物流拠点としての役割をはじめ、災害時に太平洋側港湾をバックアップする防災・救援拠点としての役割も期待されています。

<主な事業>

- ・輸出コンテナ貨物の荷主への支援
- ・日本海横断航路の支援
- ・県内外を対象にしたポートセールス

(港湾課)



●新潟空港利用活性化事業

利用客の増加や国際交流の促進などの事業を実施し、航空需要の拡大と活性化を図り、拠点空港である新潟空港の機能を高めます。

<主な事業>

- ・新規参入、増便路線への支援
- ・既存路線の拡充促進
- ・新規航空路開設に向けたチャーター便支援やエアポートセールス

(空港課)

●万代島にぎわい空間創出事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力あふれる「にぎわいの港」空間を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

- ・平成22年度、旧魚市場跡地に市民市場「ピアBandai」がオープン

<主な事業>

- ・旧水揚場跡地（ピアBandai向かい）の利用に向けた基本設計
- ・西港周辺の市民イベント等の活動支援

(港湾課)



●新潟駅周辺整備事業概要

新潟駅周辺整備事業は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、日本海拠点都市にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめ、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。



新潟駅周辺整備事業の整備目標

供用目標	鉄道関係	広場・道路関係	〈参考〉新交通システム導入計画
H25年度頃～	白山駅舎・南北自由通路	(都) 駅南線 (平成26年度) 万代広場 (部分整備)・白山駅周辺	(H27年度) 新潟駅 (万代広場)～白山駅～青山地区間 BRT供用予定
H30年度頃～	越後線複線化 越後線高架化 暫定開業 同一ホーム乗換	(都) 新潟鳥屋野線 (都) 出来島上木戸線 (都) 新潟駅西線 (一部を除く) 高架側道・区画道路 (越後線側)	(H27年度頃～H30年代前半) 第2期導入区間 (新潟駅～鳥屋野瀧南部方面) への導入を検討
H33年度頃～	新潟駅高架化 信越本線・白新線高架化	(都) 新潟駅西線 高架側道・区画道路 (信越本線・白新線側)	(H34年度頃) 高架下交通広場による新交通システムの南北一体化
H35年度頃～		万代広場、高架下交通広場 (都) 新潟駅東線 (鉄道交差部) (都) 明石紫竹山線	

※破線…凍結路線
※図中の色分けは、表の供用目標年度を示します。



(都) 駅南線 (けやき通り) H26年5月供用開始

●連続立体交差事業

JR信越本線等の新潟駅付近約2.5kmにおいて鉄道を高架化することにより、2箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業です。平成26年度は、越後線の高架化を進めるための仮越後線への切換工事を行うとともに、新潟駅部をはじめ高架化区間全体で高架橋工事を進めます。



仮越後線の整備工事



高架橋工事



新潟駅部での高架橋工事

●白山駅周辺整備事業

連続立体交差事業に伴う白山駅のホームと線路の改造にあわせて、地下自由通路、地下駅舎、駅前広場などの整備を行っています。平成25年9月1日から自由通路と新駅舎の供用を開始し、白山駅の南側からも駅利用が可能になりました。26年度は広場整備を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。



自由通路北口



自由通路 南口～北口



完成イメージ

(新潟駅周辺整備事務所)